

みえ福祉第三者評価結果表

1. 施設名 老人保健施設さくらんぼ (法人名 社会福祉法人さくら福祉会)

2. 施設の住所 松阪市飯南町粥見 5471-18

3. 施設の状況

(1) 施設の定員 100 人

(2) 看護・介護職員数(常勤換算) 39 人 : うち正規職員 33 人

(3) 看護・介護職員対入所者比率(看護・介護職員1人あたり入所者数) 2.6 人

(4) 看護職員数 10 人

介護職員数 29 人 : うち介護福祉士資格保有者 9 人

(5) 職員の現職場での勤続年数(正規職員のみ)

・ 0年以上1年未満(6 人) ・ 1年以上2年未満(3 人)

・ 2年以上4年未満(3 人) ・ 4年以上8年未満(21 人)

・ 8年以上(開設後満7年のため非該当)

(6) 看護・介護職員の平均勤続年数(正規職員のみ)

看護職員 5.7 年 介護職員 3.9 年

(7) 開設年月日 平成11年10月1日

4. 評価機関について

評価を実施した評価機関名 特定非営利活動法人コミュニティ・シンクタンク「評価みえ」

評価調査者番号 第04-24号 評価調査者番号 第04-26号

評価調査者番号 第04-27号 評価調査者番号

評価機関の住所 〒514-0001 三重県津市江戸橋1丁目10番地3

(連絡先 TEL:090-9948-4663、FAX:0593-87-3625、E-MAIL:mie@hyouka.org)

5. 評価実施期間

評価を行った期間 平成18年11月1日 ~ 平成19年3月31日

評価結果について

みえ福祉第三者評価は施設を利用しようとする方などが施設を選択する際の参考とするとともに、施設が自らが提供しているサービスを向上させるためのきっかけとして実施するものです。

この評価結果は、施設職員から構成される自己評価委員会が自らの施設のサービス向上を図る観点から行った「自己評価」と、評価機関が行った自己評価委員以外の施設職員へのアンケート形式の「職員調査」、入所者の家族への「家族調査」及び入所者から直接聴き取り調査を行った「利用者調査」を実施し、その結果を集約・分析を行い、自己評価委員会との討議・議論を経たうえで、評価機関が17項目からなる中項目ごとに5段階にて評価したものです。

5段階評価の目安は以下のとおりです

- 5 十分にできている（全般的に極めて優れている状態にある）
- 4 かなりできている（優れた状態にある）
(全般的に「適切な状態」以上であることに加え、一部に極めて優れた状態にある)
- 3 できている（適切な状態にある）
- 2 あまりできていない（一部不十分な状態にある）
(一部に重要な改善点があり、「適切な状態にある」とまでは言えない)
- 1 ほとんどできていない（全般的に極めて不十分な状態にある）

なお、施設が自ら行った「自己評価」と評価結果の基づき、改善内容について「改善計画書」を作成し、改善を実行に移します。

「改善計画書」は別途公表しておりますのでご参照ください。

介護老人保健施設「 老人保健施設さくらんぼ 」の評価結果

1 . 総合的意見及び施設の長所等

評価機関の総合的意見

渓谷にかかる橋や緑豊かな自然景観が共有スペースのベランダから眺められる静かでくつろげる環境に立地しており、職員も走り回らず、ゆったりと行動しているため、対応が和やかで安心でき、施設全体に落ち着いた雰囲気が感じられます。

老人保健施設の3ヶ月という入所期間に関わらず、地域の高齢化の状況やリロケーションダメージに配慮して、定期的な状態の見直しを行った上で、長期の入所も受け入れています。

ご家族に配慮して、訪問の少ないご家族には定期的に連絡を入れ、また、病院の付き添いを相談員が代わりに行うといった支援もされています。

地域に密着した老人保健施設として、随時見学を受け付け、介護講座の地域開催やボランティアの受け入れ等地域との関わりを模索する様々な工夫を検討されています。

地域福祉の向上についても強く意識を持ち、今後、在宅介護の地域の中心的な存在として期待がかかります。

在宅復帰については、ご本人やご家族が「本当に帰れてよかった」という実感を持って家庭に帰っていただけるよう、在宅の受け入れ態勢の個人差や家庭環境に配慮しています。

在宅復帰の状況が整わない長期入所者も多いため、施設内の生活環境を継続して、整えていかれることが望まれます。

また、在宅復帰のハードルを下げるために、今後も一層、ご家族と利用者とのコミュニケーションを密にし、可能性を広げていかれることに期待しています。

利用者やご家族の意見を真摯に受け留め、即時に対応していかれる姿勢に、改善意識の高さを感じられますので、今後もよりよいサービス提供を目指して努力を重ねていかれることを願っています。

評価項目以外を含め、当施設が特に優れている点・長所（該当する場合のみ記入のこと）

- 施設全体に落ち着いた雰囲気があります。
- 職員の対応が和やかで安心感を醸し出しています。
- ひのきづくりの個浴があります。
- 医師である施設長が、回診以外でも施設内を日々見回り、利用者の方の様子に配慮しています。
- リハビリ用のプールがあり、理学療法士、言語聴覚士のほかに、アクアフィットネスインストラクターを配置しています。
- 通所、訪問サービスの取り組みも積極的に進めています。

2. 中項目別評価結果表

評価項目	評価に用いた小項目	評点
人権尊重・利用者利益の保護が徹底されていますか	a. 利用者の権利擁護に積極的に取り組んでいますか b. 個人情報・プライバシーを保護していますか c. 抑制や拘束は行わないようにしていますか d. 苦情への対応体制を整えていますか e. 利用者や家族の意見を聴くための取り組みを行っていますか	4
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>抑制・拘束については、原則的に行わず、ご利用者の身の安全に関わる場合のみ、安全対策委員会で検討し、ご家族のご了解を得た上で、経過を見ながら随時見直しを図る、という手順が職員全体で認識されています。</p> <p>また、個人情報の記載された記録等は、昼間は職員が利用しやすい目の届く場所に置いて帳簿に布をかける等の配慮をし、夜は鍵のかかる部屋に収納するなど個人情報保護への意識の高さを感じます。</p> <p>施設長が毎日施設内を回り、利用者に話しかけて意見を聴くように努め、ご家族に関しては、ご訪問の際に、事務所職員が積極的に声をかけ、意見や要望等出しやすい雰囲気づくりを行っています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ご意見箱が事務所の前に置かれているなど、対面でのコミュニケーションが苦手な方への工夫が少し必要かと思われまます。 小さな苦情や要望も放置せず、応える努力をされていますので、改善の結果を公表し、他の利用者やご家族に施設の姿勢を伝えていくことも大切です。 		
地域福祉の向上に貢献していますか	a. 地域の関係機関・団体等と必要な連携を行っていますか b. ボランティアの受け入れに配慮していますか c. 施設の機能を地域へ還元するような取り組みを行っていますか d. 情報公開を行っていますか	4
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>地域のケア会議に参加し、地域老人会の講座へ職員を講師として派遣しています。</p> <p>また、施設に隣接する飯南高校や近くのたんぼぼ保育園とは互いに訪問し合い、利用者が文化祭に参加したり、施設内で行われる行事にお手伝いをお願いできる関係が築かれています。</p> <p>歌や踊りなどの慰問も積極的に受け入れ、介護相談員（松阪市事業）にボランティアの紹介を依頼するなど、ボランティア受け入れに取り組む姿勢がうかがえます。</p> <p>施設のプールを休日一般開放し、地域の介護力が不足していることに対して、健康講座や認知症の勉強会を開催するなど、施設の持つ資源を提供していこうという強い意欲が感じられます。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアが日常的な場面（介護、傾聴、レクリエーション等）にも関わられるよう、受け入れマニュアルの早期整備を期待します。 		

組織の運営は適切ですか	a. サービス提供の理念を職員が共有していますか b. 施設長は現場のサービスを理解し、必要なリーダーシップを発揮していますか c. 職員間でコミュニケーションや自主的な取り組みが促進されるような組織になっていますか d. 職員の満足度を高められるよう配慮していますか	3
-------------	---	---

評点の理由及びコメント

施設長が毎日施設内を回り、利用者に話かけ、その場で担当者の相談を受けたり、現場のバックアップを心がけています。また、職員自らの企画運営で交流の機会を設けており、職種や部署の違いに関わらず、「職員同士の仲がいい」と感じている職員も多く、定着して働ける環境づくりに配慮しています。

必要があると思われる時には、看護師長と事務部長が個人面談を行い、職員の相談に応じています。現場の職員が環境整備のために柔軟に活用できる予算が確保され、創意工夫できる余地を創り出しています。

[今後への課題]

- ・ 組織の理念は、縮小コピーしたものを職員が名札にはさみ、研修会で唱和するなど、共有に努力が感じられますが、まだ職員間での認識にばらつきがあるようです。継続して取り組んでいかれることを望みます。
- ・ 職員の定着率が高い組織であるため、管理職が定期的に個人面談の機会を設けるなど、適度な緊張感を保つ仕組みも必要と考えます。

評価項目	評価に用いた小項目	評点
サービスの質の向上のための仕組みがありますか	a. 適正なサービスが提供できるような職員の配置になっていますか b. サービスの質の向上に向けた計画的な取り組みを行っていますか c. 職員に研修やOJTなど資質向上の機会を確保していますか	4

評点の理由及びコメント

夜間も各部署に1名ずつ職員が配置（内1名は看護職員）され、緊急時にも対応可能な体制が取られています。

職員の資質の向上に積極的に取り組み、看護師長が職員個人の経験や技能を考慮した上で、年間研修計画を組み、ケア推進委員会が中心となり、毎月勉強会や研修を実施しています。

外部研修への参加にも、施設が研修費、交通費の補助を行っています。また、職員の意欲を高めるため、外部での発表の機会も設けています。

[今後への課題]

- ・ 技術は学びと体験の繰り返しで身につけていくことも多いので、職員が一つの部署に固定化する傾向がある場合、OJT（On-the-Job Training：職場内訓練）の一環として、一定期間他の部署で学べる施設内留学制度を設けることも有効かと思われます。

<p>安心・安全面の管理に関する取り組みを行っていますか</p>	<p>a. 事故発生時の対応や事故防止策に関する検討を行っていますか b. 防災・防犯への対策を行なっていますか c. 衛生管理・感染症対策を適切に行っていますか d. 建物設備や備品のメンテナンスを定期的に行っていますか</p>	<p>4</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>安全対策委員会を設置し、感染症対策、事故防止など各種マニュアルを整備しています。特に、緊急対応マニュアルは縮小コピーされ、いざという時に慌てなくても済むよう職員が名札に入れて常時携帯しています。</p> <p>事故発生時や危険だと感じた（ヒヤリハット）時には、報告書に記入し、再発防止計画を作り、予防策を共有するという手順が定められています。</p> <p>施設内に設けられた防災対策会議では、3日間分の食料備蓄や消防署と連携した防災訓練などを実施し、地域での役割分担を含めた防災協定の検討も行われています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時に施設としてどのように対応するのか、職員や家族への周知徹底を期待します。 		
<p>ケアプランを策定し、実施していますか</p>	<p>a. 利用申し込み時や利用時の対応体制が整っていますか b. ケアプランの策定・見直しに関する責任の所在と役割分担が明確ですか c. 利用者一人ひとりにアセスメントに基づいたケアプランを策定していますか d. 利用者一人ひとりについて、ケアプランに基づいたサービスを提供していますか</p>	<p>4</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>入所前の見学が随時可能で、利用申し込み時は、受け入れを担当する職員が面談してアセスメントを行い、各職種の参加する判定会議にはかった後に、ケアマネージャーがケアプランを立て、ご本人とご家族に説明するという手順が決められています。</p> <p>介護を受け持つ職員が、ケアプランを基に利用者やご家族から聞き取った希望や生活情報などから、個別の日課計画表「24時間シート」を作成し、週1回多職種によるカンファレンスで検討し、1ヶ月に1度シートを見直すなど、プランに沿ったサービスを提供しています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケアプランの具体的な内容をご存じない利用者やご家族がみえますので、今後、説明等一層周知の努力を望みます。 		

評価項目	評価に用いた小項目	評点
ケアプランの見直し等を行っていますか	a. サービスの提供を評価し、状態の変化に応じて随時、見直しを行っていますか b. ケアプランの見直しに際し、利用者や家族の意見を反映していますか	3
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>通常、リハビリ計画書は週1回、多職種が集まるカンファレンスで見直しを行い、ケアプランについては、月1回のフロアー会議で医師、看護師、理学療法士、言語聴覚士、介護福祉士等そろった席で見直しを行っています。</p> <p>その他、日次、月次、緊急時等、記録をとり、状態の変化に応じて随時見直しを図り、ケアプランの変更の際には、利用者、ご家族の意見をうかがい、反映するよう努めています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的な状態把握とサービス提供については見直しの機会が充分設けられていると考えられますが、最終的には「家庭への復帰をめざす」という視点から、目標（短期・長期）を設定し、可能性を探り、どこまでできているか、何が足りないかという、PDCA（plan-do-check-act cycle の略）サイクルでの総合的な見直しの機会を設置する必要があると感じます。 訪問回数の少ないご家族に対して、意見を出していただく工夫や取り組みが望まれます。 		
利用者本位の視点でサービスを提供していますか	a. 一人ひとりの生活習慣や嗜好を十分に把握したうえで、それを尊重し、実施できるようにしていますか b. 利用者の生活リズムに合わせた支援をしていますか c. 自己決定を支援をしていますか d. 利用者のできることに配慮した自立支援をしていますか	3
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>入所時の情報や施設での生活状況の観察、利用者の意向を反映した個別の日課計画表「24時間シート」を作成し、利用者の生活リズムに合わせた支援に配慮しています。</p> <p>嗜好への対応は、嫌いなものを代替食に、飲酒、喫煙等もできるようになっています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員とあまり話す機会がないという利用者もおいでなので、より一層利用者との会話を心がけ、利用者の声を今後の支援に活かしていただきたく思います。 食事の待ち時間、入浴方法など、どうしても、施設側のリズムになってしまうのは仕方のないことかもしれませんが、粘り強く利用者の意見を引き出すことに努め、対応を図っていくように期待しています。 		

<p>コミュニケーションの方法や手段は適切ですか</p>	<p>a. 利用者への言葉遣いや態度は適切ですか b. 利用者とのコミュニケーションの時間を持っていますか c. 利用者の随時の訴えに適切に対応を行っていますか</p>	<p>3</p>
------------------------------	--	----------

評点の理由及びコメント

介護スタッフが固定化されていることで、信頼感を醸成できる環境が整えられています。ご家族の来訪のない方には、カンファレンス（3カ月）毎に一度、電話で連絡するなど、利用者のご家族をつなぐ役割も果たしています。

[今後への課題]

- 一部の職員で、少し指示的な言動が見受けられます。繰り返されるようであれば、職場内で互いの言動に注意し、声を掛け合う環境づくりが必要かと思われます。
- 利用者ヒアリングから、あまり会話がないうちにおいでになるようなので、寄り添い、語りかけ、話を聞く時間の確保を今後一層努められることを望みます。
- また、利用者の訴えに対して即時対応を心がけておられますが、待たせることもあるようです。人員の配置や時間配分などで工夫をお願いします。

評価項目	評価に用いた小項目	評点
<p>利用者にとって快適な生活環境作りをしていますか</p>	<p>a. 光・音・温度などが個人に合わせて調節できるようになっていますか b. これまでの家庭での生活が継続できる環境作りをしていますか c. 利用者のプライベートな空間が整備され、尊重されていますか d. 利用者が交流しやすい共用空間を確保していますか e. 家族が訪問しやすいよう支援していますか</p>	<p>4</p>

評点の理由及びコメント

個室は、自然光を取り入れた障子の部屋もあり、利用者の希望でたたみを敷くことも可能です。また、個室利用者は、自宅から屏風やタンスを持ち込み、写真やカレンダー等でプライベートな空間づくりを行っています。多床室については空間が限られているため、パブリックスペースで家庭的な雰囲気を味わっていたり、ソファやテレビを設置し、団欒の空間づくりを演出し、自由に過ごしていただいています。

[今後への課題]

- ご家族との面会室用に会議室を利用いただけるものの、周知されていないなど、コミュニケーションの不足が見られます。今後、家族会などに参加されないご家族にも、コミュニケーションを密にして、情報を伝えていく努力を期待します。
- 長期的な入所者が多いため、これまでの家庭での生活が継続できる空間として、今以上に安らぎや落ち着ける空間づくりに励まれることを望みます。

<p>食事（嗜好・おやつ）の支援や口腔ケアは適切ですか</p>	<p>a. 利用者が食事を楽しめるような取り組みを行っていますか b. 利用者の食事がすすむ工夫を行っていますか c. 利用者が嗜好品・おやつを楽しめる配慮をしていますか d. 口腔ケアを適切に行っていますか</p>	<p>3</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>季節ごとの行事食や冬限定のお刺身のほか、食べ易くするための小さなおにぎりや選択メニューの導入、寿司のにぎりの実演を行ったりと、工夫が感じられます。利用者からは美味しいとの意見が多く寄せられました。</p> <p>また、管理栄養士の方から、1週間に1、2回、メニューの内容と由来の説明があり、食事を楽しんでいたこと意識がうかがえます。</p> <p>日々のおやつは利用者の方の希望を聞いた上で職員が購入し、月1回の手作りおやつや時折の夕食、外出できない方のため出前など、平板となりがちな生活にイベントの要素を加えています。</p> <p>食事をおいしくとっていただけるよう、近隣の歯科医院での受診を含め、義歯の調整についても積極的に取り組んでいます。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車椅子での食事をご本人が希望されているということで難しいかもしれませんが、移乗も生活の中でのリハビリテーションの一つととらえ、ご本人に無理のないように移乗をお奨めするなど、職員の粘り強い取り組みに期待します。 ・ 口腔ケアについて、寝る前は磨いていますが、昼間はイソジンガーグルでうがいをする光景が多く、できれば作業療法の一環として歯磨きできる人には薦めていかれることを望みます。 ・ 嫌いなものを残している利用者の方もいたため、代替ができることを一層周知徹底するの必要を感じます。 		
<p>入浴の支援は適切ですか</p>	<p>a. 入浴時のプライバシーに配慮していますか b. 利用者の希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるよう支援していますか</p>	<p>3</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>浴室は、出入口のドアに加え、カーテンやのれんで目隠しされ、利用者の方の羞恥心に配慮されています。</p> <p>特浴、中間浴、一般浴のほかに、ひのきづくりの個浴があり、利用者の方の身体状況に合わせ、また、希望もうちがいがいながら選んで入っていただけます。</p> <p>一人ひとりの湯舟に浸かる時間は、ゆったりと確保されています。</p> <p>湯上りには、脚用のバスタオルが一人ひとりに用意され、感染症の予防に配慮されています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入浴回数は利用者の希望を聞いて入っていただけるようになってはいますが、毎日入浴したい希望があっても、遠慮して言い出せない利用者の方もいますので、入浴回数や入浴方法など再確認を望みます。 ・ ひのきづくりの個浴の風呂を活用し、在宅復帰に向けた入浴方法の取り組みやアドバイス等、今後の工夫に期待しています。 		

評価項目	評価に用いた小項目	評点
排泄の支援は適切ですか	a. 排泄時の不安や羞恥心等に配慮していますか b. 利用者の排泄状況を把握し、一人ひとりに応じた援助を行っていますか	4
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>トイレ誘導に際してはポンポンと身体を軽くたたき合図や小声で呼びかけ、オムツ交換についても、一人用の目立たないかごに必要物品を入れ交換にうかがい、必ずカーテンで目隠しをし、羞恥心に配慮しています。部屋におがくずや炭などを置き、消臭効果も計っています。</p> <p>排尿や排便の量や回数を排泄チェック表に記入し、毎日の体調を確認しています。</p> <p>定時のオムツ交換のほか、尿、便意の訴えがあった時には、立位可能な利用者はできるだけトイレ誘導を行っています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> オムツはずしの取り組みに力を入れておられますが、利用者の訴えにすぐに対応できない時もあるようです。排泄チェック表で体内リズムを把握して、事前のトイレ誘導へとつなげる努力をこれからも期待します。 		
健康保持への支援は適切ですか	a. 利用者の意向に配慮して、寝たきり予防・離床に向けた取り組みを行っていますか b. 利用者が必要に応じて、機能回復などに向けた援助を受けることができますか c. 利用者の体調の変化に速やかに対応する体制ができていますか	4
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>寝たきり予防についての意識は高く、できるだけ離床を促し、少しでも座位をとっていただけるようソファの利用やベッド上の座位から車椅子への移行など工夫して取り組んでいます。</p> <p>週2回の機能回復のためのリハビリテーション以外にも、利用者からの申し出に応え、プログラムの相談にのったり、レクリエーションとしてユニット対抗でのボール移しやペットボトルボーリング、輪投げ等、生活の中で楽しみながらできる取り組みで補足しています。</p> <p>夜間でも利用者に体調の変化が見られれば医師に相談し、必要に応じて医師がかけつける体制ができています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 不定期に書道、編み物、貼り絵、紙芝居などを行っています。今後も、離床後の余暇活動をさらに充実し、利用者の背景に添った、定期的に参加できる活動を増やしていかれることを期待しています。 		

その他の生活支援は適切ですか	a. 移動機器の利用や移動介助の方法は適切ですか b. 身だしなみについて利用者の意向や嗜好に配慮していますか c. 利用者のニーズに応じて財産管理の支援を行っていますか d. 夜間、利用者に適切な援助を行っていますか	4
----------------	--	---

評点の理由及びコメント

毎月2回理容師の出張サービスを利用でき、身だしなみは清潔に保たれています。利用者ご自身で服を選ぶか、選べない場合は介護職員が意向を確認するようにしています。

財産管理は、ご家族からの希望に応じて、事務所で通帳を預かってお小遣いの管理を行い、領収書や明細は必ず残すようにして、収支をご家族に報告しています。

移動機器のフィッティングと購入については、利用者のご家族に説明し、購入の際に市町村からの補助を受けることについても、申請等の援助も行っています。

夜間は1時間に1度、巡視を行っています。また、利用者が不安定な状態にある場合は、居室の前に待機場所を移動して、見守りを行っています。

[今後への課題]

- 洗濯物の紛失があるようなので、ご家族への衣類受け入れ時の説明や洗濯の手順の再確認を望みます。

評価項目	評価に用いた小項目	評点
個別ケアへの取り組みを行なっていますか	a. 個別ケア推進のためのビジョンが職員間で共有されていますか b. 個別ケアを推進するために小規模ケアを行っていますか c. 地域志向の個別ケアを実践していますか	4

評点の理由及びコメント

利用者との関係性を重視した個別ケアの必要性と重要性については職員にも意識され、年に1度、施設内で日頃のケアの実践を発表するフォーラムを開催し、組織全体で共有する機会を設けています。

ケア推進委員会を設置して、個別ケア推進に向け、まずはグループケアを行い、利用者ごとに日課表「24時間シート」を作成し、意欲をもって取り組んでいます。

外出が可能な利用者の方には、買い物やドライブ、隣接する高校の文化祭に出かけるなど、地域との接点を失わないようにしています。

[今後への課題]

- 施設面での対応の難しい部分もありますが、今後、グループを少人数に移行するなど、個別対応への体制を整えていかれることを願っています。

<p>短期入所者への個別対応を行っていますか</p>	<p>a. 短期入所者の生活の継続性に配慮していますか b. 短期入所者の状態把握・個別対応を行っていますか</p>	<p>4</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>急なご希望でも、ベッドが空いている限り、受け入れられるように努めています。</p> <p>初めて入所する際は、面談によるアセスメントを行い、利用者やご家族から聞き取った情報を基に、ケアプランを作成し、できるだけ生活の継続性を保てるように配慮しています。デイの利用者であれば、昼間はデイを利用し、朝と夜間はフロアで過ごすということも、担当職員間の連携で可能です。</p> <p>環境の変化で不安感を持たせないよう、会話の時間を多く持ち、一方で、短期入所の方により、長期入所の方に混乱が起きないように、部屋を分けたり、談話室で一緒にお茶を飲む時間をつくり紹介するなど調整を行っています。</p>		
<p>認知症のある利用者に対し、適切なケアを行っていますか</p>	<p>a. 認知症のある利用者に対する日常生活の支援は適切ですか b. 認知症のある利用者に対する医療的な対応は適切ですか</p>	<p>3</p>
<p>評点の理由及びコメント</p> <p>認知症について、全職員が年4回研修を受け、症状の理解に努めています。</p> <p>環境の変化を避けるため、同じ介護職員が対応にあたり、一定の人間関係を築き、安心感を保っています。</p> <p>問題行動がある場合、利用者の行動をできるだけ制限せずに見守り、回想法やドールセラピー、音楽療法を取り入れたケアを行っています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一部の職員で指示的な言動が見られます。より一層理解を深めるための取り組みが望まれます。 ・ 在宅介護に向け、ご家族に対しても、認知症について説明を行い、理解を深めていく必要を感じます。 		

評価項目	評価に用いた小項目	評点
医療やリハビリを適切に行っていますか	a. 医療の質が確保されていますか b. 在宅復帰・在宅介護の継続に向けたリハビリをおこなっていますか	4
<p><i>評点の理由及びコメント</i></p> <p>医師である施設長が週1回回診を行うほか、回診以外でも施設内を回って利用者と会話することを心がけ、状態を確認しています。状態の不安定な方は毎日、時には日に数度、居室を訪問して診察しています。</p> <p>また、市内にある済生会病院、中央病院、市民病院の三つの医療機関とも提携を結び、利用者、ご家族の希望に沿って病院を選んでいただくことができます。入院後の再入所も可能なため、利用者の安心感につながっています。</p> <p>医師、看護師、理学療法士、介護職員等の多職種によるカンファレンスが、週1回開催され、週2回のリハビリテーションを補う、生活リハビリにも取り組んでいます。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅復帰の対象を絞り込むことなく、日常のささやかな場面でも、リハビリの機会や時間を多く持つよう工夫を継続されていくことを願っています。 		
在宅復帰・在宅介護支援に積極的に取り組んでいますか	a. 在宅復帰を支援していますか b. 在宅介護を支援していますか	3
<p><i>評点の理由及びコメント</i></p> <p>在宅復帰の時期が近づいた利用者に対して、ケアマネージャー、介護職員、理学療法士が利用者の自宅を訪問し、ご家族と話し合い、自宅の改修や在宅介護についてアドバイスを行っています。</p> <p>退所後も、ショートステイや再受入も可能で、通所でのリハビリテーション、訪問看護、居宅介護事業も併設され、地域の在宅介護の拠点として整備が進められています。</p> <p>[今後への課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> より多くの方が在宅復帰できるよう、利用者やご家族と話し合いながら、あきらめることなく、在宅復帰へのケアプラン（訪問介護、看護、デイサービス、ショートステイ、住宅改修、福祉用具等の利用についてのアドバイス）やショートステイよりも長い期間の往復型の在宅介護支援プランの提案など、ご家族の状況に応じた取り組みに工夫され、利用者の在宅復帰の可能性を一層上げられることを期待しています。 		